

東京大学 大学院人文社会系研究科
平成 21 年度 次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

基礎文化研究専攻考古学専門分野
博士課程 角道亮介

1. 基本情報

氏名 : 角道亮介
所属・身分 : 人文社会系研究科基礎文化研究専攻考古学研究室
博士課程二年次（平成 22 年度時点）
派遣形態 : 個人派遣

2. 研究テーマ

西周時代青銅器の研究 — 青銅彝器の型式変化から見た社会構造研究 —

3. 派遣先での活動

(1) 派遣先の基本状況

派遣先 : 台湾
都市名 : 台北・台南
研究従事機名 : 中央研究院歴史語言研究所
現地受入研究者 : 陳昭容 研究員

※陳昭容教授のほか、黄銘崇副研究員、内田純子助研究員、黄川田修博士後研究員（以上、中央研究院歴史語言研究所）、黄翠梅教授、盧泰康助理教授（以上、国立台南芸術大学）らの諸先生方に研究の便宜を図っていただいた。

(2) 派遣期間

2010 年 3 月 27 日から 2010 年 4 月 29 日まで 34 日間
（研究活動は 3 月 28 日～4 月 4 日の間を台南で、4 月 5 日～29 日の間を台北で行った）

4. 主な研究成果

(1) 計画の概要

中国河南省濬県辛村で発掘された西周時代大墓から出土した青銅彝器群を主な研究対象として、王朝系青銅器・在地生産青銅器の別を論ずるために青銅器自体の型式変化に注目して分類検討を行い、他諸侯地域出土の青銅彝器との比較を通じて、西周時代衛国の王朝との関係性を考察することを目的とした。同時に、辛村遺跡出土遺物は南京と台北とに分かれて保管されており、このような複雑な遺物管理下において辛村出土青銅器の中央研究院歴史語言研究所における収蔵状況を再確認することも目的の一つとした。

(2) 研究成果

収蔵状況については、辛村出土青銅器について既に報告された資料（郭寶鈞『濬県辛村』、科学出版社、1964年）のうち、一部を除きほぼ全てが中央研究院歴史語言研究所に保管されていることを確認した。一方で土器資料の多くは南京に収蔵されており、また前述の報告書が多くの制約下で編集されたために実際の出土遺物との間に幾つかの矛盾点があることも改めて確認できた。現存する資料を基に、新たに全面的な報告がなされることが望ましいと思われる。

辛村出土青銅器のうち、鼎3点（M29:2, M55:1, M76:2）、簋3点（M29:3, M29:4, M76:1）、甗1点（M29:1）、盃1点（M51:2）、小方彝1点（M5:84）を実測した。微妙な紋様表現の差異や青銅器鑄造痕跡から推定される製作技術などを観察し、各青銅器が製作された年代を再検討した結果、辛村墓地は西周前期から西周後期まで存続した可能性が高い。一方で中期以降の王朝系青銅器は前期に比べ出土点数が非常に少なく、王朝とのかかわりに変化があったことを示唆している。青銅彝器の作りの精粗の違いも併せて考えれば、中期以降の青銅彝器在地生産の可能性を強く認識すべきである。

西周前期	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>精製</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>M60</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>粗製</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>M55</p> <p>精製</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>精製</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>M29</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>粗製</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>M76</p> <p>精製</p> </div> </div>
西周中期	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>M51</p> <p>粗製</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>中期？</p> </div> </div>
西周後期	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>M5</p> </div> </div>

辛村遺跡出土青銅彝器の年代

（個々の青銅器の写真は 郭寶鈞『濬県辛村』、科学出版社、1964年 より引用）

(3) 今後の研究展望

辛村遺跡に埋葬された集団と西周王朝との関係は、青銅彝器の出土状況から考える限り、山西省の晋侯のような王朝との結びつきが強い集団とは明らかに異なっている。これが王朝中心地域からの距離的な乖離ゆえの現象であるのかどうか、辛村墓地と同じく西周王畿から比較的遠距離にい位置する山東省前掌大遺跡や北京琉璃河遺跡から出土した青銅彝器との比較検討を進め、青銅器を通じた当時の社会構造を解明したい。